



## ■ 「見つける」「つなげる」「見守る」

日本人の意識に関する調査で、職場や親せき、そして地域（隣近所）との深い付き合いを望む人が年々減っている結果が出ています（グラフⅢ参照）。長年東京で暮らしていた亜紀も隣近所との深い付き合いを望んでいませんでした。そんな亜紀にとって、世話好きな邦子は苦手で仕方ありません。しかし、福祉協力員である邦子の熱心で明るい見守り活動に触れ、亜紀は次第に感化され、夫の誠も気付きませす。

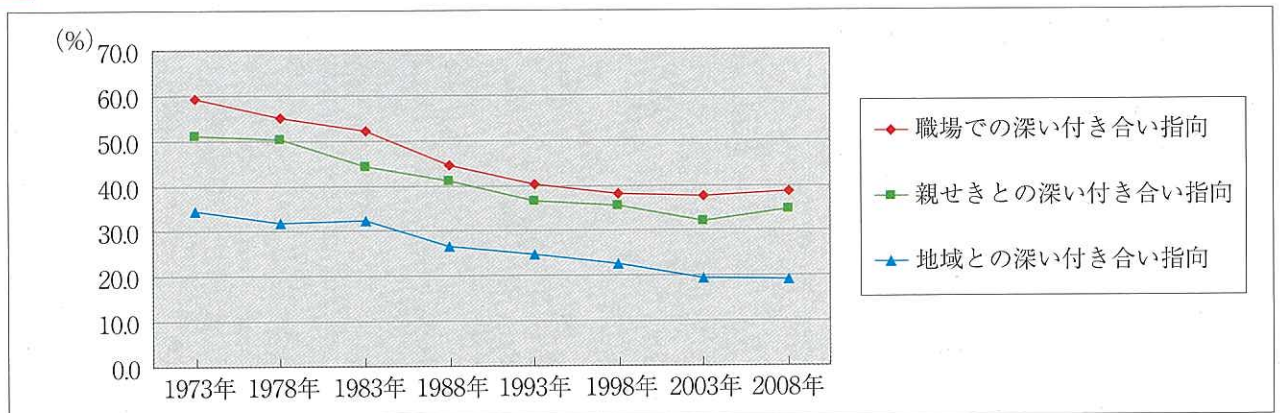
「地域のみんが、おふくろのことを見守ってくれてたのかもな」

北九州市が展開する「いのちをつなぐネットワーク」は、見つける⇒つなげる⇒見守る⇒見つける⇒…を基本サイクルとしています。見守り活動と聞くと、大変そうですが、ウォーキング中にポストに新聞がたまっていないか気に掛けるなど、ちょっとしたことから始められます。

そのような行動の中から、いつもと違うその人の様子を「見つける」、それを関係機関に「つなげる」、そして日常に戻ったその人を「見守る」、「見守る」中からまた「見つける」…とサイクルは続きます。

せっかく縁あって隣近所に住む人たち。その縁を大事にし、互いに関心を持ち、気に掛け、助け合う「共助」の関係で豊かなコミュニティを築きたいものです。

**グラフⅢ** 職場・親せき・地域に対して深い付き合いを指向する人の比率



(注) これらの比率は、「職場の同僚」「親せき」「隣近所の人」との付き合いについて、「なにかにつけ相談したり、助け合えるような付き合い」を望ましいと回答した人の割合

(資料) NHK 放送文化研究所「第8回『日本人の意識・2008』調査結果の概要」



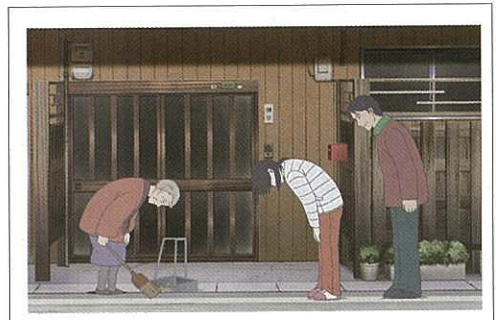
## 映画のシーン

近所に住む邦子にまちで出会ったとき、亜紀は一応会釈しそっと行き過ぎようとする



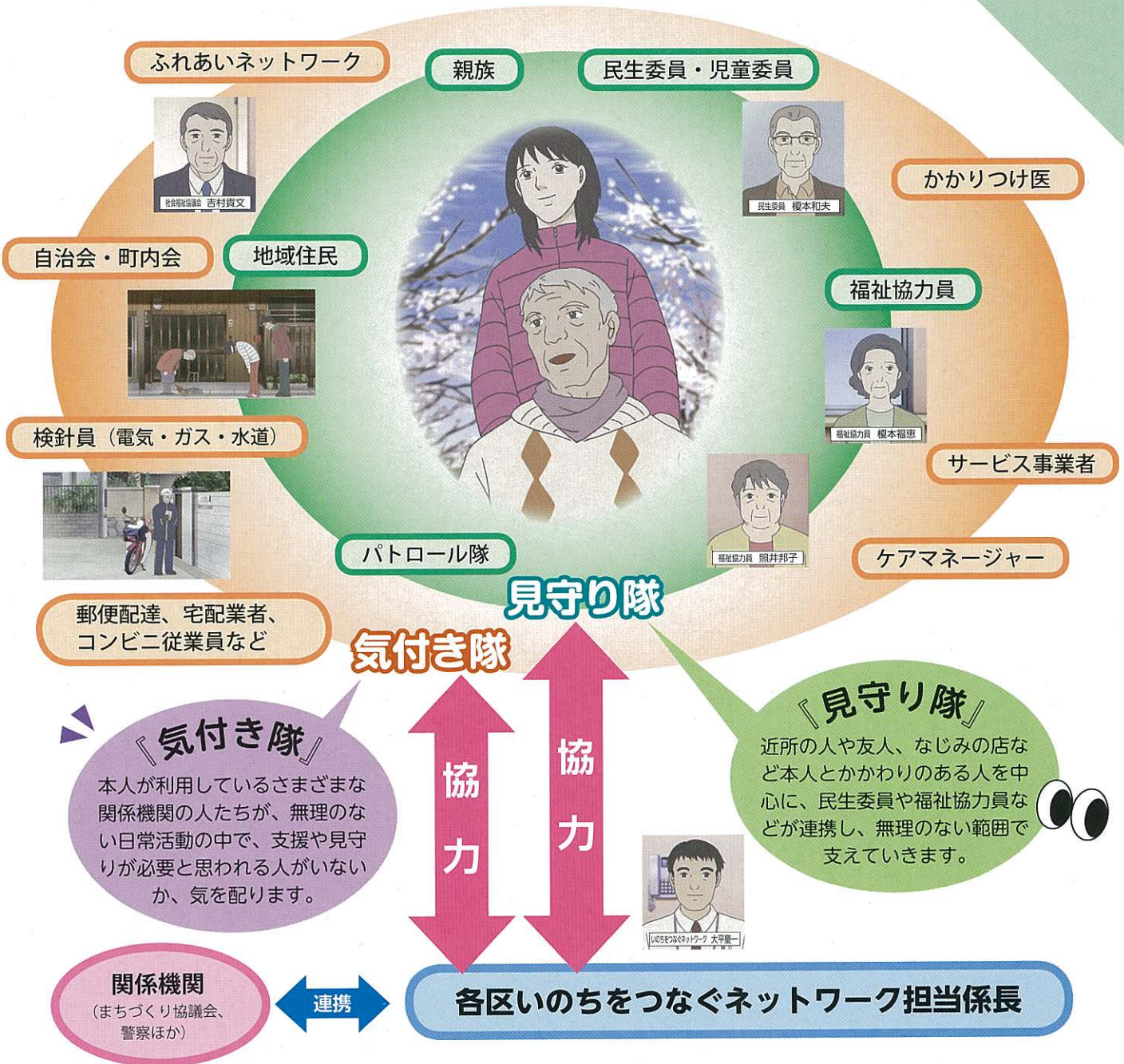
亜紀「うちのマンションなんてニコってあいさつしとけば良かったしい。余計な詮索する人なんていなかったもの」

誠 「おふくろも、おやじが死んでからは一人でこの家に住んでたんだな。でも…みんなが…地域のみんが…おふくろのこと、見守ってくれてたのかもな」





# いのちをつなぐネットワークのイメージ



## 誰もがそれぞれの地域参加を

2010（平成22）年に、全国で高齢者の所在不明が問題となり、改めて地域を支える民生委員の存在が注目がされました。一人の民生委員が受け持つ世帯数の基準は、政令指定都市では220～440世帯です。一人暮らしの高齢者や子育て家庭など、見守りや支援が必要な人が増え続ける中、一人の民生委員に掛かる負担が増大しており、民生委員のなり手が少ないという状況になっています。

地縁、血縁、社縁で結ばれていたかつての社会に戻ることができず、新たなつながりをつくっていかねばなりません。それを民生委員など特定の人に任せきりにするのではなく、地域住民みんなでカバーする「協働」での取り組みが求められます。その担い手を高齢者や女性だけではなく、幅広い多くの人に広げ、無理のない範囲で支え合う地域にしていきたいものです。

「私もね、昔助けられたの。…今私がしているのは、そのときのほんの恩返し。おせっかいは伝染するわよ」。邦子が亜紀に言ったせりふですが、そんなつながりも含めて、さまざまな形での地域参加をあなたのまちで進めましょう！